

## 中華人民共和国（重慶地域）の人々の 日常生活と地域保健システム

鈴木 知代\*    中野 照代\*    藤生 君江\*    入江 晶子\*  
仲村 秀子\*    顧 寿智\*    片山 京子\*\*    任 輝\*\*\*  
謝 小燕\*\*\*

聖隷クリストファー大学看護学部\*  
聖隷クリストファー大学看護短期大学部\*\*  
中国西南医院看護部\*\*\*

## The Daily Life of People and the Community Health System in Chongqing Area, The People's Republic of China

Tomoyo SUZUKI\*    Teruyo NAKANO\*    Kimie FUJII\*    Shoko IRIE\*  
Hideko NAKAMURA\*    Shouzhi GU\*    Kyoko KATAYAMA\*\*  
Hui REN\*\*\*    Xiaoyan XIE\*\*\*

Department of Nursing, Seirei Christopher College, Japan\*  
Seirei Christopher Junior College of Nursing, Japan\*\*  
Department of Nursing Administration, Southwest Hospital, China\*\*\*

### 抄 録

個人・家族・地域の力量を高めるための地域看護活動の要因を検討する目的で、中国の重慶市の中心地にある市区と郊外にある大足県の4家族の家庭訪問調査と地区踏査を実施した。その結果より「育児のサポート力の強さ」、「家族のきずなの強さ」、「近隣の相互扶助力の強さ」そして「個人のセルフケア能力の高さ」が共通の特徴として抽出された。家族機能と家族・親族・近隣が支え合う伝統的な地域コミュニティの存在が確認された。

キーワード：重慶市区と大足県、訪問面接調査、日常生活、地域保健システム

## I. はじめに

地域看護は、地域で生活しているさまざまなライフサイクルや健康レベルにある人々を対象に、健康レベルとQOLの向上を目的とし、個人のセルフケア能力を高め、さらに家族や地域の力量を高めることに最大の援助の力点をおいている。また、地域看護活動は、生物的、文化的、環境的、経済的、社会的、保健・医療・福祉施策などの要因から大きい影響を受けることは周知の事実である。そのため自国の保健活動のあり方を検討するためには、自国だけではなく、他国の保健活動の実態、人々の生活様式や意識・行動を把握することが必要であると考えられる。

今回調査地に選択した中華人民共和国（以下中国と略す）は、一人っ子政策など政策が人々の生活に深く浸透していること、さらに東洋医学の伝統と発展がもたらす歴史の中で個人のセルフケア能力が高く、地域の相互扶助力の強さ、儒教精神に基づいた家族観などにおいて、現在の日本とは異なる特徴があると考えられる。

以上のことを踏まえ、本研究では人々の日常生活の様子やヘルスケア行動、相互扶助の状況、さらに家族観などを明らかにすると共に、中国の保健・福祉・医療政策とそのシステムを把握し、個人・家族・地域の力量を高めるための地域看護活動の要因を検討するための資料を得ることを目的とする。

## II. 重慶市区、大足県の概要

調査地の重慶市は中国南西部、長江上流に位置し西部大開発・三峡ダム建設に伴い1997年に四川省から独立し、北京・上海・天津に次ぐ4番目の中央直轄市に指定された。2000年の人口は3,090万人、65歳以上の人口は7.9%である<sup>1)</sup>。面

積は82,403km<sup>2</sup>で北海道の面積に相当する。重慶市の中で一定の都市機能を備えたエリアは、市区と呼ばれ重慶市の市区人口は558万人である。<sup>2)</sup>大足県は、重慶市郊外にある農村地域で世界遺産に認定された石刻の宝庫としても知られ重慶市区の西176kmに位置する。

## III. 方法

2003年3月21日と22日は大足県での2家族の家庭訪問調査を実施し、3月24日は重慶市区での2家族の家庭訪問調査を実施した。

調査内容は、成人や高齢者の日常生活について（仕事の内容、生活習慣、家事の内容、健康を守る行動、健康観、日常生活用品の購入方法）、現在の健康状態と受診状況、趣味や楽しみ、ストレス解消方法、家族団らんの状況、老後の生活設計、近隣との相互扶助の状況等である。

子育て中の母親に対しては、家族の健康状態、母親の職業とその内容、夫の職業、経済状況、育児の様子、育児サポート状況、育児負担感、親の生育環境、育児満足感、育児の知識・技術の伝承方法や子育ての文化等である。家族機能としては荒木田らが開発した「乳幼児健康診査問診票」<sup>3)</sup>の項目である情緒的機能、教育

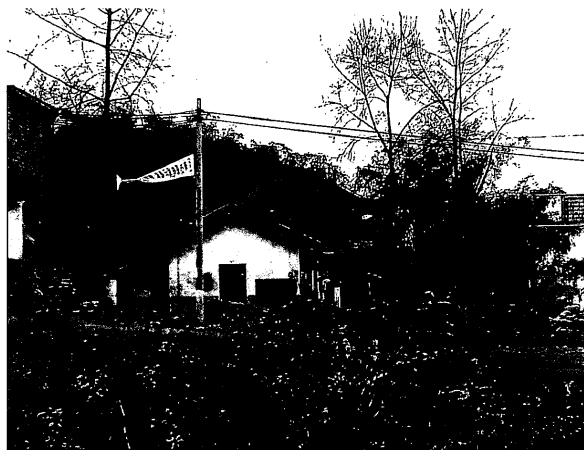


写真1 農村の風景

的機能、健康保持機能を取り入れた。また、地域保健活動についても質問項目とした。

以上の項目について通訳を介して質問し、項目以外にも自由に語ってもらった内容をまとめた。さらに訪問宅の近隣の様子や人々へのインタビューも試みその内容も分析に加えた。

#### IV. 結果

##### 1) Aさんの家族【大足県和平村（農村）】

2階建ての1件家が密集し、周りは畑が多い。道路は舗装されているが、一步細い通りに入ると舗装はされていない。車や通行人はほとんど見かけない。高速道路完成前は、重慶から大足まで6時間かかっていた。

Aさんの家族は、Aさん（中肉中背56歳の男性、農作業）、その妻53歳（少々ふとり気味、セーターを重ね着して厚着）、長男夫婦と孫6歳（幼稚園）の5人暮らしで、次男、三男は独立している。

住居は、白いタイルづくりの2階屋で国から建築費用の補助があった。入り口を入るとバイクと自転車と搾菜の根が置いてある広い土間があった。そこから細い土間の廊下があり、台所につながっていた。電気、水道、ガスが通っている。家のすぐ隣で4頭の豚を飼っている。（1頭売ること800元の収入がある。1元は日本円で約16円）。2階は寝室や子ども部屋があり、ベッドは木製で蚊帳を使っていた。2階から屋上に出ることができ、屋上には洗濯物が干してあった。庭にはAさんが運んできた石（両肩合わせて約150kgは担ぐ）を積み上げて花壇を作り、琵琶の木が植えられていた。玄関には一人っ子政策の看板が付けられていた。Aさんと妻が答えてくれた内容は、表1の通りである。

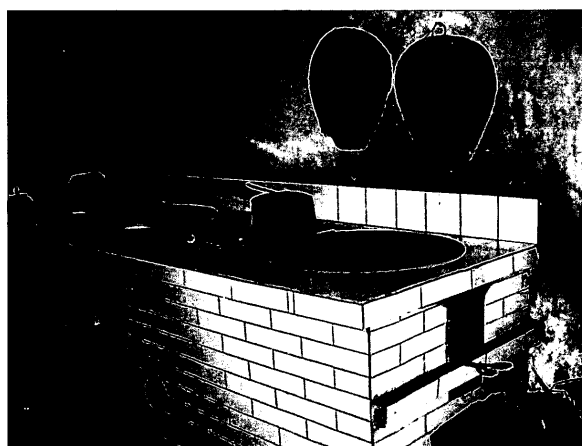


写真2 Aさんの家の台所

##### 2) Aさん家の近隣の人々

隣の家に遊びに来ていた1歳の乳児を育児中の母親へインタビューをした。育児の知識については『実母や姑から教えてもらうことが多い』育児のサポートは『たくさんの手助けがある』育児負担感は『育児は楽しい、疲れていない』と回答してくれた。

私達がインタビューしていると隣に住む75歳の男性が、家から笑顔で出てきて話しに加わってくれた。中肉中背で暖かそうな帽子をかぶっていた。『病気はなく悪いところはどこもない。朝6時半から7時にかけて家の周辺を散歩し、帰宅してから家事を行う。遠くの親戚より、近くの他人という考えがある』と語ってくれた。



写真3 おんぶの様子

表1 Aさん家族

〈健康状態と受診行動〉：Aさんは病気もせず、元気である。たまに風邪を引くこともあるが、その時には、漢方薬局から薬草を買い、それを煎じて飲んでいる。薬は漢方と西洋の両方を使っている。治らない時は大足県立病院へ、病気が重い時は重慶市区の病院に行く。県立病院までは、バスまたはタクシーで通院する。緊急の場合には、電話をすると15分程度で救急車が来る(救急車は30元かかる)。妻の健康状態は、足首から下が痛いぐらいで元気である。子どもの発熱時は病院には行かず薬をかうことが多い。

〈Aさんの日常生活〉：朝は6時から7時に起床し、夜は9時から10時頃に就寝する。生活の中での楽しみはテレビを見ること(テレビはケーブルテレビで約30の番組がある)とお酒を飲むこと。酒は楽しい時に少量飲む程度であり、普段はお酒もたばこも吸わない。食生活は朝は麺類、昼と夕飯はご飯が主である。副食は自作の野菜中心、肉や魚は普段はあまり食べず、来客のあるときに食べる程度。調理には菜の花の実で作った油や、豚の油を多く使用する。使用量が多いのは豚の油である。牛乳は飲まない。

〈育児の知識・技術、子育て文化〉：子どもの四肢をまっすぐにし、動かないように衣類でくるむswaddlingは、2歳までした。育児の知識は先祖から伝えられ、育児の本は読まない。

〈育児方法、教育的機能〉：母乳は11ヶ月まで飲ませていた。悪いことをしたときには、叩くし厳しい態度で接する。

〈子供観〉：一人っ子だから絶対大事だと常に思っている。

〈近隣の乳幼児死亡〉：死亡はあるが少ないと思う。

〈近隣との関係〉：近所の連帯が強く、仲が良く何でも相談する。家を建てるのも近所との連帯で建てる。

3) Bさんの家族【大足県市街】

日本の市営住宅のような外観の集合住宅の1階にBさんの家があった。住宅前の道路(大きな道より少し入るため車は少ない)沿いには、2階建ての建物が並んでいる。1階は店舗になっている所が多く、靴の中敷を足踏みミシンで作成し、一元で売っている中年女性も見られた。その他、インターネット場や、麻雀場、食堂、まちの保健室、雑貨屋などがある。Bさんはよくこの麻雀場で友達と麻雀をすと話してくれた。数人の母親たちが子どもを遊ばせながら歩道で話をしていた。

Bさん(54歳女性少々太りぎみ)は夫と息子夫婦、7歳になる孫(女兒)の5人家族である。Bさんは学校の先生だったが今は退職している。夫は病院長で退職後、再就職し今は教育局で学校の制服を作る会社に勤務している。息子は交通局勤務、息子の妻は幼稚園の教諭をしている。

住居の建築費用に6万元、内装料に8万元かった。集合住宅の概観に比べ家の中はとても綺麗で、冷暖房が完備され、家具は高級品が置

かれ大型テレビやパソコンも置かれていた。台所、食堂、リビング、浴室、子ども部屋、息子夫婦の部屋、夫婦の部屋があった。息子夫婦の部屋には、ルームランナーが置かれていた。電話は子機で他の部屋につながっていた。庭には小さな池があり、食用の鯉が放されていた。庭に2層式洗濯機も置かれていた。井戸があり、20メートルの地下から井戸水を汲み上げ、生活用水に使用している。Bさんと息子の妻が答えてくれた。また、Bさん宅に遊びに来ていた2ヶ月の



写真4 まちの保健室

乳児を連れて親戚のCさん（看護師）もインタビューに答えてくれた。その内容は表2の通りである。

4) Dさん家族【重慶市区の閑静な集合住宅群】

Dさんの家までの道は交通量も多く、道路の両側には、食堂や理髪店などたくさんの商店が並んでいる。通りの片隅では、人が集まりトランプなどを行っていた。Dさん宅はにぎやかな通りから一步入った静かな場所で、高層住宅が



写真5 Bさんの家がある集合住宅

表2 Bさん家族とCさん

〈Bさんの健康状態と受診行動〉

既往歴：子宮筋腫、卵巣、胆のうの手術をした。輸血はしたくないので、3回手術をしたが輸血はしなかった。

現病歴：高血圧で漢方の薬を飲んでいる。

通院状況：2週に1回 薬局で薬を購入。病院では血圧測定のみ行ってもらう。

保険状況：社会保険と個人保険の両方に加入している。（自己負担10%）

〈Bさんの日常生活〉

食生活：朝食はたまご、牛肉、お粥、ラーメンが多い。子供はカルシウム摂取のため牛乳を飲む。夫も毎日牛乳を飲んでいる。昼はご飯、野菜、肉や魚で、夕食はご飯、野菜、肉や魚を食べている。

\*肉は毎日、魚は週に2~3回。生魚を買ってきて、池に放し、食べる時には、お手伝いさん（親戚の農家の人）が調理している。

清潔：入浴はシャワーのみ、バスタブがない。井戸水のため水圧が強くトイレの方にも水がまわっている。お湯はガス湯沸し機が設置されていた。

家事：1回20円でヘルパーが家事や掃除をしてくれる。洗濯や料理は親戚の農家の人が行ってくれるので、給料を支払っている。ヘルパーは会社に依頼する人もあるが、利用した人に聞いて評判の良いヘルパーを頼んでいる。料理は遠い親戚の人が毎日行う。掃除は週2回依頼している。給料は住みこみのヘルパーで、給料のみ300元/月。3回の手術後であり、高血圧もあるため手伝ってもらっている。

〈健康の為に心がけていること〉：毎朝6：30~7：30、広場で約1時間太極拳を行う。20から30人ぐらい集まる。

午前中は老人大学で英語の勉強、太極拳や太極扇の勉強、午後は麻雀をすることが多い。夕食後、毎日近くの広場でダンスを行う。400人くらい集まる。ダンスは参加したい人が参加するが女性が多い、男性は恥ずかしくて入りたくないようだ。学生時代はロシア語を学んだ。

〈生活の中での楽しみ〉：いろいろなことをすることが楽しみ。孫の成長がとても楽しみ。

〈家族関係〉：家族内で良く話をする。3食とも一緒に皆で食べる。息子もお昼は帰ってきて食べることが多い。息子の家族とも仲が良く1回も喧嘩したことがない。

〈老後に備えての貯蓄〉：年金2000元、夫の給料は貯金している。タクシーを2家族で1台購入しその利益が毎月入る。

〈介護について〉：家族がいる場合には、家族が看るのが当たり前で施設には行かない。家族が面倒看れない人が老人ホームに行く。

〈育児の教育的機能、子ども観〉：息子の妻より、子どもが悪いことをした時には、悪いことだと教え時にはお尻を叩く。遊びは卓球やフットボールをしている。『孫はよく勉強してくれて嬉しい。』とBさんが話していた。

〈育児のサポート〉：Cさんより遠い親戚の人をお手伝いとして24時間雇って食事や掃除などを依頼している。病院まで赤ちゃんを連れてきてもらって授乳している。

〈子育て文化〉：乳児は布オムツとオムツの取替えが簡単なので股割れズボンをはいていた。

多くその中にあった。住宅のベランダには洗濯物や布で作ったモップ等が干してある。集合住宅の入り口には門があり、守衛がいた。

Dさんは妻と2人暮らしで息子3人は、それぞれ独立し重慶市に住んでいる。Dさん70歳、飛行機のエンジニアとして働いた後、医師となり10年前まで腎不全専門の医師として勤務し65歳で退官した。長男は医師（神経科勤務）、次男は国土局、三男は市役所の警備員として勤務している。息子達は仕事が忙しいため、たまに来る程度だそう。妻（70歳）は1952年まで婦長として勤務し、その後看護師の教育に携わっていた。退官後、今の住居に住んでいる。国がこの住居を売却したので、今は自分の物になった。バルコニーでは植物を育て、妻が好きなので鳥を飼っている。アトリエがあり、夫婦で絵を描いていた。電気、水道、ガスが通っている。Dさんとその妻がインタビューに答えてくれた。その内容は表3の通りである。



写真6 Dさんの家の居間

#### 5) Eさん家族【重慶市区、市街地】

商店が並ぶ繁華街から一步入った集合住宅の一軒に訪問した。住宅の入り口には数人の女性（高齢者）が椅子に座って話しをしていた。また守衛も椅子に座っていた。その回りで子どもたちが遊んでいた。近くに幼稚園があった。Eさん（34歳）は看護師をしていたが、現在は事務

表3 Dさん家族

#### 〈Dさんの健康状況と受診行動〉

慢性気管支炎、心筋梗塞の既往がある。

受診状況：2~3か月に1回外来に通院している。保健所(まちの保健室)ではかぜなどの簡単な診療を受けている。

この集合住宅の中に診療所があり、医師がおり、薬の処方もしてくれる。

医療費：外来や入院で一部自己負担があると思うが、妻が管理しているのでわからない。

〈妻の健康状況〉：糖尿病、高血圧がある。

#### 〈Dさんの日常生活〉

12時30分より1時間程、夕方も1回、酸素吸入をしている。酸素ポンベの会社が2~3ヶ月に1回交換に来る。昨年の12月31日から酸素を使用し始めている。酸素ポンベは1本で20日ぐらい持つ(頭金500円で1日1元を払っている)。

食事は薄味で、やわらかくやさっぱりした物が中心で一日3食きちんととっている。

〈趣味〉：体調が良く天気の良い日には、外へ散歩に行く。最近あまり外出しない。元気な頃には、よく釣りに行っていた。近くには釣りのできる場所はないので、タクシーで行く。

妻の趣味は絵を描くことで、アトリエがあり花が多く描かれていた。ご主人も描く。

〈心配事〉：孫の勉強のことが心配。

〈健康のために心がけていること〉：足つぼマッサージ機を使用してマッサージをしている。自分の体調により、酸素を吸入すること。室内を歩くこと。ベランダでの日光浴や足浴。京劇が好き。パソコン(インターネット)。クラシック音楽を聴くこと。テレビを見ること(ニュースが楽しみ)。

〈交流〉：友人が訪ねて来たり自分が訪ねたり、妻の方が頻度が多い。

〈年金制度〉：日本の年金のような制度があり、30年以上仕事をしている場合、毎月の給料と同じくらい出る。

表4 Eさん家族

〈育児のサポート〉：近所に4人くらい同じ年代の子どもがいるので子どもの成長・発達について話をする。近所の人 が子どもをみてくれる。夫の協力は少ないと思うが、仕事を始めてから実母(68歳)の協力がある。
〈育児満足感〉：育児は楽しい。
〈子育ての文化〉：2ヶ月からオムツはしない(おしっこをしたいのだということが様子からわかるので)。1歳まで夜 間のみオムツをする。7ヶ月までは同じ部屋で子供用ベッドに寝かせていた。5歳まで同じ部屋に寝る。入浴は2 日に1回。
〈保健行動〉：発熱時は西南病院に受診する。気をつけていることは、風邪の予防と外出時の伝染病予防。
〈母乳〉：10ヶ月と10日まで混合栄養。
〈保健所とのかかわり〉：健康診査は生後3ヶ月と6ヶ月時に実施、予防接種は病院で受ける。B型肝炎(生後1ヶ月)、 ポリオ、麻疹、BCG、百日咳、破傷風。離乳食(4ヶ月から)は婦幼保健所のパンフレットから学んだ。

職をしている。10年間勤務したので3ヶ月の休暇  
をもらった。核家族で、夫と10ヶ月の男児がい  
る。夫は自動車品質検査の管理の仕事をしてい  
る。Eさんへのインタビュー内容は表4の通りで  
ある。

#### 6) 妊娠後期の妊婦（街頭インタビュー）

妊婦院や病院では、妊娠前期と出産後の教室  
があり、自由に選んで参加できる。出産前後3ヶ  
月の有給休暇がある。25歳以上はそれにプラス  
して10日、帝王切開の場合はプラスして15日の  
休暇がとれる。

7) 重慶市区内のホテル前広場でのインタビュー  
6時30分頃から、ホテルの前の広場で、数名か  
ら数十名のグループになって人々が音楽に合わ  
せてのダンスや太極拳、太極剣、太極扇、足を  
広げる鉄棒、バドミントン、自分流の体操など  
を楽しんでいる。中高年者が殆どである。一人  
で羽つきをしている高齢者にインタビューを  
行った。身長は160cm位で、顔色が良く表情も  
柔和な中肉中背70歳の大学卒の男性である。妻  
は既に亡くなっている。10年前に国のローカル  
電車の会社を退職し、現在は年金生活である。  
色々な人と友達になるのが楽しみでここに來  
る。食事は3回きちんとする。健康づくりのため  
に、太極拳、少林寺拳法、呼吸法、腹筋運動



写真7 重慶市区内の風景



写真8 広場の健康体操

(年齢の数だけ下腹を押さえて踵を上げる運動)などをする。自分の心臓は30歳代といわれている。その他の健康法は、にんにくを生でスライスして毎日食えることと櫛で何回もすくことにより頭皮を刺激することである。

## V. 考察

今回訪問した4家族や近隣の人々へのインタビューで共通して感じたことは「育児のサポート力の強さ」、「家族のきずなの強さ」、「近隣の相互扶助力の強さ」そして「個人のセルフケア能力の高さ」であった。

「育児のサポート力の強さ」については、今回の調査より、実母や姑など家族の協力の存在、近隣の人々が自然に子どもをみている様子、金銭を使って人を雇っている実態があり、いろいろな形の育児サポートの存在が明らかになった。吉田らの調査結果でも、夫や家族による家事の協力や育児施設の充実が中国看護職員の勤務継続の大きな要因であり、それが女性の就業率の高さを上げていると述べている<sup>4)</sup>。サポート力が家族や地域にあるために母親が安心して働き、結果として『育児が楽しい』との発言にみられるように、育児負担感が少ないと推察される。さらに、育児方法の伝承も家族や地域のつながりの中で存在し、地域全体で育児を担っているとの印象を受けた。

「家族のきずなの強さ」においては、日清オイリオ「2002年日本人の食卓風景」調査結果によると、夕食を同居家族がそろって食べる頻度は20歳以上979人中「ほぼ毎日」と回答している者が44.0%に留まっている<sup>5)</sup>。今回の調査家族では、食事は『家族全員で食べる』、『家族に何でも相談する』、『育児の知識は母や姑から』などの発言に見られるように、家族内に教育的機

能や情緒機能が十分に存在していることが明らかになった。また老親の扶養意識面では、『家族が看るのが当然』との意識が強い状況がみられた。中国人の馬氏は、中国では社会福祉施設と敬老院だけであり「施設養老」は僅かに3%に留まり、「同居扶養」が主な養老パターンと述べている<sup>6)</sup>。中国の要介護高齢者対策の未整備も要因とは思われるが、家族内に老親の扶養機能が存在することも把握できた。

「個人のセルフケア能力の高さ」は、受診行動において特に見られた。病院へのアクセスに時間がかかることや、医療費がかかることなどの要因も絡むが、すぐに病院へ行くのではなく、状態を自分なりに判断し、まず漢方薬などを使い、それでも治らない場合に病院へ受診するという行動様式がみられた。65歳以上の者の6割以上が通院者となっている日本の現状<sup>7)</sup>と比較すると、日本においては医療施設に自らの健康の判断を求めている高齢者が多いという実態がうかがわれる。さらに中国では自分の健康管理意識も高く、広場での集団体操や太極拳など思い思いの健康法を楽しみながら実践し、学習活動面では老人大学での学習や個人で絵などの趣味も持つなど活発な活動が見られた。

現在日本においては人々の地域とのつながりが希薄になり、隣人がどのような生活をしているのかわからないという、都市生態の報告も多く<sup>8)</sup>、高齢者の「孤立、閉じこもり」が大きな問題になっている。また核家族化が進み、地域全体での子育てを支え合う意識の低下も叫ばれている。今回の調査地においては、インタビューをしていると近隣の人と一緒に話しに加わってくれたり、友人と麻雀を楽しんだり、集団で健康体操を楽しんだり、人と人との繋がりを大切にする光景が各所で見られ、夫婦、親子、家族、親族、近隣が支え合うという伝統的



な相互扶助を強く感じた。今後中国においても社会保障制度の充実とともに、サービスが充実し新しいコミュニティが形成されていくが、温もりがある家族・親族・近隣同士の支え合う伝統的なコミュニティの形は今後も生かされる必要があるのではないかと今回の調査を通じて痛感した。

## VI. 終わりに

今回重慶市内中心地と郊外の大足県の家庭訪問調査と地区踏査より、生活状況の特徴として、「育児のサポート力の強さ」、「家族のきずなの強さ」、「近隣の相互扶助力の強さ」そして「個人のセルフケア能力の高さ」が共通項目として抽出された。今後調査対象者を拡大して、個人・家族・地域の力量を高めるための地域看護活動の要因分析を試みたい。

## 引用文献

- 1) 中国研究所編（2002）：中国年鑑． p.269, 創土社，東京．
- 2) 関満博，西澤正樹（2000）：挑戦する中国大陸の産業． p.50, 新評論，東京．
- 3) 荒木田美香子，中野照代，藤生君江，片桐雅子，佐藤友子，野崎やよい，仲村秀子，飯田澄美子（2003）：幼児健康診査における育児機能評価のためのアセスメントツールの開発—その2育児機能アセスメントツールⅠの有用性の検討—．日本地域看護学会誌，5(2)，51-60．
- 4) 吉田由美，山城久典，梶原祥子，佐藤紀久江他（2001）：中華人民共和国女性看護職員の勤務継続要員—3省2自治区15病院の場合

- 一．日本公衆衛雑誌，48(6)，460-469．
- 5) 生活情報センター編集（2003）：食生活データ総合統計年報． p.217, 文栄社，東京．
- 6) 馬利中（1996）：中国における家族家族構造の変動，人口高齢化と高齢者の扶養・ケア．保健の科学，38(5)，343-350．
- 7) 厚生統計協会（2003）：国民衛生の動向． p.72, 東京．
- 8) 永見広行，秋山弘子，阿部晃一，釘本祥子，小林陽子，榊原幸雄，相馬由紀子，高橋千草，橋とも子，奈良部晴美，渡邊裕司（2002）：大都市の健康生態：東京から．公衆衛生，66(9)，8-22．